

管理栄養士の病棟常駐による効果

施設名：江藤病院

発表者：山城 与晶 (管理栄養士)

共同演者：川下 拓宏 (管理栄養士) 井上 奈緒美 (管理栄養士) 日下 至弘 (医師)

由宇 教浩 (医師)

[目的]

疾患に応じたより適切な栄養管理を目的に、2020年10月より各病棟に管理栄養士を常駐配置した。常駐後の他職種の意識変化や退院時のエネルギー充足率・BMI・Albについて検討したので報告する。

[対象]

- ①入院病棟業務に関わる職員 77人
- ②2020年・2021年の3月～6月に当院回復期リハビリテーション病棟(以下回リハ病棟)に1ヶ月以上入院した患者 2020年40人 2021年37人

[方法]

- ①2021年10月に入院病棟業務に関わる職員へ管理栄養士の病棟常駐前後の意識変化についてアンケート調査を実施。(回収率97%)
- ②管理栄養士病棟常駐前後の、回リハ病棟入院患者の入院時と退院時のエネルギー充足率・BMI・ALB値を比較。

[結果]

- ①アンケート結果では、「食事相談の依頼がしやすくなりましたか?」の問いに93%がそう思う・ややそう思うと回答した。「他職種から見た管理栄養士に対する評価は向上したと思いますか?」の問いに82%がそう思う・ややそう思うと回答した。他に「食欲不振がある患者の希望に沿った食事提供の対応が早くなった」、「食事の相談がしやすくなった」と意見があった。一方で「病棟にいる時間が不規則で分かりにくい」と指摘も受けた。
- ②回リハ病棟の入院患者の入院時と退院時の比較ではエネルギー充足率の増加がみられた患者は常駐前72%、常駐後78%。BMIの改善がみられた患者は常駐前40%、常駐後43%。ALB値の改善がみられた患者は常駐前47%、常駐後70%であった。

[考察]

病棟に管理栄養士が常駐することで、多職種と連携し適切な栄養管理を提供することが可能となった。しかし、当院では直営で調理業務を運営しており、管理栄養士も給食管理を担っている。そのため、病棟に常駐する時間が不規則になることがある。今後は、病棟での滞在時間が確保できるように業務改善に取り組むと思う。